



レポート

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [レポートのアクション \(2 ページ\)](#)
- [テンプレート ヘルプの追加 \(7 ページ\)](#)
- [レポート フィルタ \(8 ページ\)](#)
- [レポート タイプ \(12 ページ\)](#)
- [レポートの管理 \(16 ページ\)](#)
- [レポートの実行 \(25 ページ\)](#)
- [レポートのインポート \(29 ページ\)](#)
- [レポートとフォルダのエクスポート \(31 ページ\)](#)

概要

レポートには、レポート定義（データベースクエリ）から返されたデータが表示されます。このデータは、データベースクエリから抽出され、さまざまなレポートビュー-グリッド、グラフとして表示できます。

レポート作成者のユーザーロールを持つユーザーは、ナビゲーションページから **[レポート (Reports)]** をクリックして **[レポート (Reports)]** ページを開くことができます。



(注) レポート インターフェイスでのすべての操作は、レポートとフォルダに対するユーザーロールとオブジェクト権限に基づきます。

レポート作成または編集に関する詳細については、「レポートの作成」の項を参照してください。

関連トピック

[レポートの作成 \(16 ページ\)](#)

Stock レポート

シスコは、Unified Intelligence Center で使用する在庫レポートテンプレートを提供しています。Stock レポートは Cisco.com からダウンロードできます。Stock レポートテンプレートには、Unified CCE データベースに保存されているデータが表示されます。

Unified Intelligence Center をインストールした後、**インポート**機能を使用してStock テンプレートをインポートし、ビジネス要件に合わせてStock レポートをカスタマイズすることができます。[名前を付けて保存 (Save As)] オプションを使用してインポート済みStock テンプレートを複製し、カスタマイズすることができます。

Stock レポートには、デフォルトのグリッドビューが1つあります。グラフビューも持っているStock レポートは、わずかしかなかったりありません。



(注) Stock レポートテンプレートのローカライズはサポートされていません。

利用可能なStock レポートテンプレートは次のとおりです。

- **監査証跡** - Unified Intelligence Center サーバのエンティティに対して実行された作成、更新、変更、および削除に関連したトランザクションの一連の監査記録を確認できます。
デフォルトでは、[システム管理者 (System Administrators)] 以外、このレポートにアクセスすることはできません。[システム管理者 (System Administrators)] は、他の Unified Intelligence Center ユーザに権限を与えれば、このレポートを使用できます。
- **グループアクセスの詳細** - ダッシュボード、レポート、その他のリソースなどの Unified Intelligence Center リソースを使用するグループのアクセス権を表示します。
- **リソースの所有権とアクセス** - ダッシュボード、レポート、その他のエンティティなどの Unified Intelligence Center リソースを使用するユーザのアクセス権と、ユーザの所有権に関する情報を表示します。
- **ユーザの監査ログ** - ログに記録されたユーザの詳細 (名前と役割)、イベントの詳細、更新された列、ユーザの詳細、およびその他の変更された詳細などのユーザの監査ログデータを表示します。

詳細については、実行モードで [?] アイコン (テンプレートヘルプ) をクリックします。

レポートのアクション

レポートから実行できる各種アクションを次の表に示します。



(注) 一度に最大 10 個のタブを開くことができます。

表 1: レポートのアクション

アクション	説明
レポートレベルのアクション	
新規	
レポート	<p>選択したフォルダに新規レポートを作成します。</p> <p>詳細については、「レポートの作成」の項を参照してください。</p> <p>(注) スtockフォルダ内でレポートを作成することはできません。レポートはstockフォルダにのみインポートできます。レポートを編集またはカスタマイズするには、レポートを複製し、複製されたバージョンを編集します。</p>
フォルダ	<p>新規フォルダを作成します。この機能を使用してレポートを分類します。</p> <p>(注) フォルダを別の場所に移動または保存すると、無効フォルダを含むすべてのフォルダがドロップダウンのリストに表示されます。編集アクセス許可のあるサブフォルダにアクセスできます。</p> <p>(注) stockフォルダ内にフォルダを作成することはできません。</p>
ツールバーのアクション	
更新	<p>[レポート (Reports)] ページを更新します。</p> <p>すべてのフォルダレベル (ルート、サブフォルダ、およびレポート) に適用されます。</p>
お気に入り	<p>レポートに簡単にアクセスできるように、レポートを [お気に入り (Favorites)] に設定できます。</p> <p>[お気に入り (Favorites)] に追加するレポートの名前の横にある星形のアイコンをクリックします。</p>
検索	<p>特定のレポートを検索します。</p>

アクション	説明
インポート	<p>レポートをインポートします。</p> <p>レポートをインポートするには、レポートデザイナー、レポート定義デザイナー、および値リストコレクションデザイナーの各ロールと、インポート先の対象フォルダの編集権限が必要です。</p> <p>詳細については、「レポートのインポート」を参照してください。</p> <p>権限の詳細については、『Cisco Unified Intelligence Centerレポートカスタマイズガイド』（https://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.html）を参照してください。</p> <p>(注) すべてのフォルダレベル（ルート、サブカテゴリ、およびレポート）に適用されます。</p>
省略記号 (...) のアクション	
編集	<p>レポートの詳細を編集します。編集モードでは、レポートの詳細/ビューしきい値、およびフィルタを追加、変更、削除できます。</p> <p>レポートの編集が終わったら [終了 (Finish)] をクリックします。</p> <p>(注) ストック レポートは編集できません。</p>
名前を付けて保存	<p>レポートのコピーを別の名前で保存します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • デフォルトでは、レポートユーザにはレポートのルートフォルダ内にサブフォルダを作成する権限がありません。権限を取得するには、管理者に連絡してください。 • [名前を付けて保存 (Save As)] アクションは、コンテンツ (レポートやフォルダ) をストックフォルダとそのサブフォルダに移動するためには使用できません。 <p>(注) レポートの説明では、次の特殊文字はサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 括弧 (()) • 山カッコ (<, >) • スラッシュ (/) • 疑問符 (?) • 引用符 (") • 実行可能スクリプト、JavaScript

アクション	説明
レポート定義をクローン	<p>保存されているレポートに関連付けられたレポート定義のコピーを作成したい場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート定義のクローン作成チェックボックスをクリックします。 2. 新しいレポート定義名を入力しレポート定義の場所を選択します。 3. [保存 (Save)]をクリックします。 <p>新しいレポートは、クローンされたレポート定義に関連付けられます。</p>
名前の変更	<p>フォルダまたはレポートの名前を変更します。</p> <p>(注) スtock フォルダまたはStock レポートの名前は変更できません。</p> <p>(注) ルートレベルフォルダに適用されます。</p>
移動	<p>レポートまたはフォルダを別のフォルダに移動します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • レポートやフォルダを移動できるのは、移動するレポートまたはフォルダの親フォルダに対して編集アクセス許可を持っている場合だけです。 • Stockフォルダ（およびそのサブフォルダ）内のカスタムフォルダまたはレポートを他の場所に移動することはできません。
デフォルトフィルタの設定	<p>レポートフィルタを作成します。</p> <p>詳細については、「レポート フィルタ」の項を参照してください。</p> <p>(注) レポート実行モード中に、デフォルトとして設定チェックボックスをフィルタを選択ダイアログボックスでチェックすることで、デフォルトのフィルタを設定することもできます。</p>
ヘルプの追加	<p>レポートテンプレートに関するヘルプページをホストします。詳細については、「テンプレート ヘルプの追加」の項を参照してください。</p>

アクション	説明
削除	<p>レポートまたはフォルダを削除します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • レポートやフォルダを削除できるのは、削除するレポートまたはフォルダの親フォルダに対して編集アクセス許可を持っている場合だけです。 • スtock フォルダまたはStock レポートは削除できません。
アクセス許可	<p>ダッシュボードにアクセスして管理するための適切な権限を割り当てます。</p> <p>グループ：レポートの表示および編集権限を付与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • セキュリティ管理者は、さまざまなグループにこれらの権限を付与できます。 • エンティティの所有者は、直接関連付けられているグループにこれらの権限を付与できます。 <p>ユーザー：レポートの表示および編集権限をさまざまなユーザーに付与します。セキュリティ管理者にのみ適用されます。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 個々のユーザまたはユーザグループのより高い権限（表示および編集）が優先されます。 • 最初の 200 レコード（アルファベット順）のみが[メンバー (Members)]または[グループ (Groups)]パネルに表示されます。さらに多くのレコードを表示するには、[設定 (Configure)]>[グループ (Groups)]を参照してください。 • 権限を変更し、[グループ (Groups)]タブと[ユーザー (Users)]タブを切り替える場合は、変更を保存するか破棄するかを選択するように求められます。
パーマリンク	<p>レポートのパーマリンクを表示します。詳細については、「レポートのパーマリンク」を参照してください。</p> <p>(注) 固定ハイパーリンクにはWebブラウザからのみアクセスできます。</p>

アクション	説明
エクスポート	カスタムレポートまたはレポートフォルダをエクスポートします。レポートおよびレポートフォルダは、ZIP ファイル形式でエクスポートされます。レポートまたはレポートフォルダをエクスポートするには、 REPORT DESIGNER ロールが必要です。詳細については、「レポートとフォルダのエクスポート」を参照してください。

関連トピック

[レポートのパーマリンク](#)

[テンプレートヘルプの追加 \(7 ページ\)](#)

[レポートの作成](#)

[レポートのインポート \(29 ページ\)](#)

[レポートとフォルダのエクスポート \(31 ページ\)](#)

[レポートフィルタ \(8 ページ\)](#)

テンプレートヘルプの追加

各 Cisco Unified Intelligence Center レポートに個別のヘルプファイルを設定できます。ヘルプページを個別にホストして、そのヘルプページの対象のレポートをポイントするか、またはヘルプページを作成してレポートとともにアップロードすることができます。

このヘルプのコンテンツはそのレポートに固有のものであり、次のような説明を含めることができます。

- レポートの使用方法
- フィールドの説明
- フィールド間の関係の詳細
- レポートデータの解釈方法
- その他のレポート関連情報

zip ファイルのみをアップロードできます。ZIP ファイルには、複数の HTML ファイルを含めることができます。HTML ページのコンテンツは、イメージを含むリッチテキストをサポートします。



(注) ヘルプファイルは、ビデオやその他のインタラクティブコンテンツをサポートしません。

レポートにヘルプページを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1** 左側のナビゲーション ウィンドウで、[**レポート (Reports)**] をクリックします。
- ステップ2** ヘルプ ページを作成するレポート行の横にある [... (省略記号)] アイコンをクリックし、[**ヘルプの追加 (Add Help)**] をクリックします。
- ステップ3** [**ヘルプの追加 (Add Help)**] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
- レポートのヘルプとして外部ヘルプページを設定するには、[URL] オプションを選択し、外部 URL の場所を入力します。
 - ヘルプファイルをアップロードする場合は、**ファイルを選ぶ** オプションを選択して **ブラウザ** をクリックし (HTML ファイルで) ZIP ファイルをアップロードする。
- ステップ4** ファイルをアップロードした後、[**保存 (Save)**] をクリックします。
- (注) レポートを実行するときは、レポートツールバーの「?」アイコンをクリックして設定されたヘルプファイルを表示します。

関連トピック

[レポートに関するヘルプの表示](#)

レポート フィルタ

フィルタの種類

Unified Intelligence Center のレポート フィルタは、データを選択的に表示するために使用します。フィルタを定義し、レポートに表示するデータをフィルタ処理できます。[フィルタ (Filter)] ページを表示するには 2 とおりの方法があります。

- レポートの生成前：レポートの作成時に、**アクション > デフォルトフィルタの定義** オプションを利用して、デフォルトのフィルタ値を絞り込むことができます。
- レポートの生成後：フィルタアイコンを使用してフィルタ値を絞り込むことができます。



(注) レポートフィルタの選択時に、レポートデザイナーで [**レポートの実行中にフィルタをスキップする (Skip filter during the report execution)**] チェックボックスをオンにした場合は、フィルタを表示できません。

Cisco Unified Intelligence Center では、次のタイプのレポートフィルタがサポートされます。

- 日時

- 主要な条件
- フィールドフィルタ
- パラメータ

フィルタパラメータは、選択したクエリタイプに基づいて、そのレポートのレポート定義に基づいて表示されます。

表 2: フィルタのタブ

レポート定義クエリタイプ	適用可能なフィルタタブ
データベースクエリー	日付および時刻、キー基準、フィールドフィルタ
ライブデータまたはリアルタイムストリーミング	キーの基準、フィールドフィルタ
匿名ブロック	パラメータ
ストアドプロシージャ	パラメータ

日時



- (注)
- 新しいレポートの場合、および既存のレポートの実行時に日時フィルタを選択できます。日時フィルタは、リアルタイムレポートおよびライブデータレポートには適用されません。
 - Cisco Unified Intelligence Center はブラウザのロケールを使用してフィルタ ページに日時形式を表示します。Cisco Unified Intelligence Center がブラウザのロケールの言語をサポートしていない場合、Cisco Unified Intelligence Center アプリケーションで選択されているロケールが使用されます。

レポートに日時フィルタを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** レポートを作成した後で、省略記号のアクションから [デフォルトフィルタの設定 (Set Default Filter)] をクリックします。
- ステップ 2** [日時 (Date & Time)] フィルタ ウィザードで、[日付範囲 (Date Range)] と [時間範囲 (Time Range)] オプションを選択します。

- [日付範囲 (Date Range)] と [時間範囲 (Time Range)] フィルタに使用可能なオプションは事前に定義されています。
- [カスタム (Custom)] オプションを選択すると、[日付範囲 (Date Range)] と [時間範囲 (Time Range)] の詳細をカスタマイズできます。

時間間隔が1日以上開いている場合にのみ、曜日を選択できます ([曜日 (Days)] > [カスタム (Custom)])。

匿名ブロックのクエリタイプに基づくレポートには、曜日を選択できません。詳細については、『Cisco Unified Intelligence Center レポートカスタマイズガイド』

(https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-user-guide-list.html) を参照してください。

ステップ3 レポート実行中にフィルタ選択をスキップする場合は、**レポートの実行中にフィルタをスキップする** チェックボックスをオンにします。

(注) [フィルタを選択 (Choose Filter)] ダイアログボックス (レポート実行モード) で、[デフォルトとして設定する (Set as Default)] チェックボックスをオンにすると、レポートフィルタがデフォルトとして設定されます。

ステップ4 [次へ (Next)] をクリックします。

主要な条件

値リストまたはコレクションを選択するには、フィルタの [キー基準 (Key Criteria)] タブを使用します。コレクションとは、事前に設定された値のグループです。



(注) [キー基準 (Key Criteria)] フィールドは事前に定義されたフィルタで、レポート定義で定義されている場合にフィルタ画面に表示されます。

キー基準フィルタを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1** レポートを作成した後で、省略記号のアクションから [デフォルトフィルタの設定 (Set Default Filter)] をクリックします。
- ステップ2** [日時 (Date & Time)] フィルタ ウィザードで、[日付範囲 (Date Range)] と [時間範囲 (Time Range)] オプションを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ3** [キー基準 (Key Criteria)] フィルタ ウィザードで、[使用可能 (Available)] 選択ボックスからコレクションまたは値を選択します。

- ステップ4** 矢印キーを使用して、選択したコレクションまたは値を [選択済み (Selected)] 選択ボックスに移動します。
- ステップ5** また、複数のコレクションや値を選択することもできます。
- ステップ6** [次へ (Next)] をクリックします。

フィールドフィルタ

レポート内のフィールドをフィルタリングするには、[フィールドフィルタ (Field Filters)] タブを使用します。選択したフィールドタイプ (日付、数値/10進数、ブール、または文字列) に基づいて異なる演算子を使用できます。たとえば、2分を超えてキュー内にあるコール、または保留状態にあるすべてのエージェントをフィルタリングし、重要度の低い情報を除外することができます。



(注) 次のようにレポートにフィールドフィルタを設定できます。

- SQL クエリーベースのレポートに対してのみ。
- テキスト、日付、ブール、または 10 進数フィールドをフィルタリングする。

フィールドフィルタを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1** レポートを作成した後で、省略記号のアクションから [デフォルトフィルタの設定 (Set Default Filter)] をクリックします。
- ステップ2** [日時 (Date & Time)] フィルタ ウィザードで、[日付範囲 (Date Range)] と [時間範囲 (Time Range)] オプションを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ3** [キー基準 (Key Criteria)] フィルタ ウィザードで、[使用可能 (Available)] 選択ボックスからコレクションまたは値を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ4** [フィルタ フィールド (Field Filters)] ウィザードで、次の基準に従ってフィルタを選択します。

フィルタ基準または演算子は選択したフィールドタイプ (日付、数値/10進数、ブール、または文字列) によって異なります。

- [日付 (Date)] の場合、[日付範囲 (Date Range)] フィルタで使用可能なオプションは事前に定義されています。[日付範囲 (Date Range)] ドロップダウンリストを使用し、[カスタム (Custom)]、[今日 (Today)]、[前日 (Yesterday)]、[今週 (This Week)]、[前週 (Last Week)]、[今月 (This Month)]、[前月 (Last Month)]、[年度累計 (Year to Date)]、または [前年 (Last Year)] から選択します。

ユーザが [カレンダー (Calendar)]、[時間範囲 (Time Range)]、および [曜日 (Days)] の特定の曜日をカスタマイズできるのは、[カスタム (Custom)] のみです。

- [10進数 (DECIMAL)] の場合、[次の値と等しい (Equal To)]、[次の値と等しくない (Not Equal To)]、[次の値より小さい (Less Than)]、[次の値以下 (Less Than or Equal To)]、または [次の値より大きい (Greater Than)] から演算子を選択して値を入力します。たとえば、演算子 [次の値より大きい (Greater Than)] を選択して、値に「16.5」を入力します。
 - [文字列 (String)] の場合、[次の値と等しい (Equal To)]、[次の値と等しくない (Not Equal To)]、または [一致 (Matches)] から演算子を選択して文字列に値を入力します。たとえば、[一致 (Matches)] 演算子を選択して、値に「Team Green」と入力します。
 - [演算子 (Operator)] として [一致 (Matches)] を選択した場合は、文字列フィールドに一致する SQL パターンを指定する必要があります。システムにより、文字列の先頭と末尾にワイルドカード文字 % が自動的に付加されます。文字列の間で SQL のワイルドカードパターンを使用することもできます。
 - フィルタフィールドが [値リスト (Value List)] と関連付けられている場合は、フィルタリングする値を指定するか、あるいは1つ、すべて、または複数の項目を [選択済み (Selected)] 列に移動します。
- (注) 先頭または末尾にスペースのあるレポートデータレコードをフィルタリングするには、一致 (Matches) 演算子のみを使用します。統一されたインテリジェンスセンターが SQL クエリを実行する前にフィルタ基準をトリムし、一致する結果をフェッチしないシナリオでは同等演算子または等しくない演算子を使用しないでください。
- [ブール (Boolean)] の場合は、[演算子 (Operator)] リストから [True] または [False] を選択します。

ステップ 5 [演算子 (Operator)] ドロップダウンリストを使用して、基準を選択します。

- (注) 演算子の [一致 (Matches)] を選択した場合、Microsoft SQL ワイルドカードパターンを使用してデータをフィルタリングできます。ワイルドカード文字の % が、データのフィルタリングに使用されるすべての文字列の先頭と末尾に追加されます。

ステップ 6 [値 (Value)] フィールドに、フィールド内のデータをフィルタリングする基準となる値を入力します。

ステップ 7 [実行 (Run)] をクリックします。

レポートタイプ

レポートには、クエリータイプに基づいた3つのタイプがあります。

- 履歴レポート
- リアルタイム レポート
- ライブ データ レポート

レポートのコンポーネント

これらのレポートは、次のコンポーネントで構成されています。

• データソース

データソースは、レポートのデータを含むソースを定義します。Unified Intelligence Center は、Microsoft SQL Server、IBM Informix、ストリーミングの3種類のデータソースをサポートしています。データソースは事前設定されているはずですが、事前設定されない場合は、管理者に連絡し、適切なデータソースを設定してください。

• レポート定義

各レポートには、レポート定義があります。これは、各レポートテンプレートに対し、データがどのようにデータソースから取得されるかを表します。データの取得方法（シンプルなMS SQL クエリー、ストアードプロシージャクエリー、リアルタイムストリーミング、または匿名ブロッククエリー）を指定するのに加えて、レポート定義には、取得されたデータセットが含まれます。これには、フィールド、フィルタ、数式、リフレッシュレート、およびレポートのキー基準フィールドがあります。

• レポート

レポートには、レポート定義から返されたデータが表示されます。このデータはデータベースクエリーによって抽出されます。

• タイムゾーン変換

タイムゾーン変換は、ユーザとデータソースのタイムゾーンが異なる場合に行われます。

データベースクエリーレポートでの夏時間の考慮：レポートがフィルタリングされる際のタイムゾーン変換には、日付範囲開始時点での夏時間オフセットが考慮されます。夏時間への切り替えがフィルタの日付時間範囲の途中で発生した場合には、ユーザとデータソースのタイムゾーンが異なっても、タイムゾーンのオフセットは正しく計算されません。このようなときは、夏時間への切り替えの前と後で別々のレポート呼び出しが実行されるように時間フィルタを分割する必要があります。



(注) 夏時間オフセットは、最新のシステムタイムゾーンライブラリを基準にしています。



(注) サマータイム開始日または終了日（データが録音されたとき）は、SQL データベースのタイムゾーン値の変更によって、（レポート出力）で追加の行を作成します。これは、任意のテンプレートレポート、またこれらのテンプレートレポートで使用する任意のクエリの種類（匿名ブロック、データベースクエリ、保存済みの処理、リアルタイムストリーミング）にも適用されます。SQLでタイムゾーン値が変更されていることを確認するには、[レポートサマリ] ページの [レポートのオプション] アイコンを使用して、AW ノードの SQL コマンドを実行してタイムゾーンの変更を検証します。

例 1 :

ユーザのタイム ゾーン : オーストラリア/シドニー

データ ソースのタイム ゾーン : アメリカ/ニューヨーク

夏時間への切り替え : シドニーでは 2013-10-06 02:00 a.m. に 1 時間追加。ニューヨークではすでに夏時間 1 時間追加を適用済み

ユーザが選択したフィルタ : 2013-10-06 ~ 2013-10-06、12:00 a.m. ~ 11:59 p.m.

データ ソースのタイム ゾーンで形成されたクエリー : 2013-10-05 10:00:00 a.m. ~ 2013-10-06 09:59:59 a.m.

ユーザのタイム ゾーンで表示されるレポート : 2013-10-06 12:00 a.m. ~ 2013-10-07 12:59 a.m.

この場合、シドニーの夏時間は日付範囲の開始時点では適用されておらず日付範囲の終了時点では適用されているので、レポートには 1 時間追加されたデータが表示されます。

例 2 :

ユーザのタイム ゾーン : オーストラリア/シドニー

データ ソースのタイム ゾーン : アメリカ/ニューヨーク

夏時間への切り替え : シドニーでは 2013-10-06 02:00 a.m. に 1 時間追加を適用。ニューヨークではすでに夏時間 1 時間追加を適用済み

選択されたフィルタ : 2013-10-06 ~ 2013-10-10、03:00 a.m. ~ 11:59 p.m.

データ ソースのタイム ゾーンで形成されたクエリー : 2013-10-05 12:00:00 p.m. ~ 2013-10-06 08:59:59 a.m.

ユーザのタイム ゾーンで表示されるレポート : 2013-10-06 03:00 a.m. ~ 2013-10-06 11:59 p.m.

この場合、日付範囲期間内に夏時間への切り替えが行われないため、通常の変換が実行されます。

例 3 :

ユーザのタイム ゾーン : アメリカ/ニューヨーク

データ ソースのタイム ゾーン : IST

夏時間への切り替え : ニューヨークでは、2013-03-03 02:00 a.m.に夏時間 1 時間追加、2013-11-03 02:00 a.m.に解除。IST では夏時間なし。

ユーザが選択したフィルタ : 2013-11-03 ~ 2013-11-03、01:30 a.m. ~ 05:30 p.m.

データ ソースのタイム ゾーンで形成されたクエリー : 2013-11-03 11:00:00 a.m. ~ 2013-11-03 02:59:59 a.m.

ユーザのタイム ゾーンで表示されるレポート : 2013-11-03 01:30 a.m. ~ 2013-11-03 04:30 p.m.

この場合、ニューヨークの夏時間は日付範囲の開始時点では適用されており日付範囲の終了時点では解除されているので、レポートには1時間差し引いたデータが表示されます。

• レポート ビュー

レポートは（グリッドおよびチャートなどの）さまざまな形式で表示できます。各ビューに個別のフィールドを設定できます。1つのレポートに複数のビューを混在させることができます。

• レポートのヘルプ

レポート専用のヘルプページを含めることができます。詳細については、「[テンプレートヘルプの追加](#)」の項を参照してください。

関連トピック

[テンプレートヘルプの追加](#) (7 ページ)

履歴レポートおよびリアルタイム レポート

履歴レポート : 履歴データ ソースからデータを取得します。レポートには、デフォルトでは15分の更新間隔で間隔データが入力されます。履歴レポートには最大8,000行の上限があります。

リアルタイムレポート : リアルタイムデータ ソースからデータを取得します。レポートには、デフォルトでは15秒の更新間隔で間隔データが入力されます。リアルタイムレポートには最大3,000行の上限があります。

Cisco Unified Intelligence Center の履歴およびリアルタイムレポートの実行時に、次の操作を行うことができます。

- レポート内のデータにフィルタを適用する
- レポートのビューをグリッドからゲージまたはグラフに変更する



(注) 事前定義されたグリッド、ゲージ、グラフビューのいずれかを選択できます。

ビューの作成/編集の詳細については、「レポートビュー」を参照してください。

- レポートを変更する。

関連トピック

[レポートビュー](#) (17 ページ)

ライブデータ レポート

ライブデータ レポート : ストリーミングデータソースからデータを取得します。ライブデータレポートはグリッドビューのみサポートします。



(注) ライブデータレポートでは、システム時刻の変更への自動的な対応は行われません。サーバまたはクライアントの時刻が変更または調整された場合、期間フィールドの値を正確に表示するにはレポートを更新する必要があります。たとえば、夏時間 (DST) に切り替わったとき、アクティブなライブデータレポートの期間フィールドには正しい値が表示されません。ライブデータレポートを更新してアップデートする必要があります。

レポートの管理

レポートの作成

レポートインターフェイスでのすべての操作は、レポートとカテゴリに対するユーザの役割とオブジェクト権限に基づきます。



(注) デフォルトでは、レポートユーザには [レポート (Reports)] の下にサブフォルダを作成するアクセス許可がありません。管理者がサブフォルダを作成し、アクセス権を付与します。

新しいレポートを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左側のナビゲーションペインで、**レポート**をクリックします。

ステップ2 レポートを作成するフォルダに移動します。

ステップ3 [レポート (Reports)] ツールバーから、[新規 (New)] > [レポート (Report)] をクリックします。

既存のレポートを編集するには、そのレポートに移動し、レポートの横にある[...] (省略記号) アイコンをクリックして [編集 (Edit)] をクリックします。

ステップ4 [新しいレポートの作成 (Create New Report)] ウィンドウで、レポートの [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を入力します。

(注) レポート名は、Cisco Unified Intelligence Center 内で一意にする必要があります。

ステップ5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ6 **基本的な詳細** タブで、レポートの詳細を入力または選択します。

(注) 矢印を使用して適切なレポート定義を選択します。

ステップ7 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ8 **ビューの管理** タブで、レポートビューを作成して **次** をクリックします。

詳細については、「レポートビュー」を参照してください。

ステップ9 **しきい値** タブで、レポートのしきい値を作成して **完了** をクリックします。

詳細については、「レポートのしきい値」の項を参照してください。

新しく作成されたレポートは、**レポートページ**に一覧されます。

関連トピック

[レポート フィルタ](#) (8 ページ)

[レポート ビュー](#) (17 ページ)

[レポートのしきい値](#) (23 ページ)

レポート ビュー

レポート ビューには次の2つのタイプがあります。

- グリッド ビュー
- グラフ ビュー



(注) 手動で作成したレポートビューのいずれかに現在関連付けられているレポート定義フィールドは、削除しないでください。削除した場合、レポートを保存するには、手動で作成したすべてのレポートビューにデータフィールドを再適用する必要があります。

デフォルトのグリッドビューでは、削除されたフィールドは[データフィールド (Data Fields)] リストから自動的に削除され、そのほかのフィールドは[選択済みのフィールド (Selected Field)] リストに保持されます。そのため、レポートを保存するための追加アクションは不要です。

グリッドビューの作成

グリッドはデータを行と列の表形式で表します。デフォルトでは、シスコのストックレポートには1つのグリッドビューがあります。カスタムレポートの場合は、[レポート定義 (Report Definition)] で SQL クエリーからデフォルトグリッドが作成されます。



(注) ライブデータレポートではグループ化とフォントサイズはサポートされていません。

レポートの作成または編集にグリッドビューを作成できます。

グリッドビューを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 レポートを作成または編集します。

ステップ2 [基本詳細] 画面でレポートの詳細を入力し、[次へ (Next)] をクリックします。
[ビューの管理] 画面にデフォルトのグリッドビューが表示されます。

(注) レポートのパーマリンクには、レポートの基準を入力した後のみアクセスできません。レポートパーマリンクを使用すると、他のユーザとレポートを共有したり、他のユーザのレポートを表示することができます。詳細については、「レポートのパーマリンク」を参照してください。

ステップ3 デフォルトビューを編集したり ([アクション (Actions)] 列>[ビューの編集 (Edit View)])、または [新規作成 (Create New)] > [グリッドビュー (Grid view)] をクリックして新しいグリッドビューを作成できます。

グリッドビューの編集 または 新しいグリッドビュー 画面は編集または作成の選択に応じて表示されます。

ステップ4 [名前 (Name)] フィールドと [説明 (Description)] フィールドにそれぞれ入力します。

(注) グリッドビューの [名前 (Name)] に許容される最大長は 50 文字です。

ステップ5 [フォント (Font)] 選択ボックスで、グリッドデータを表示するフォントサイズをリストから選択します。

ステップ6 矢印ボタンを使用して、[使用可能 (Available)] 値のリストボックスからフィールドを選択し、[選択済み (Selected)] フィールドリストに移動します。

ステップ7 グリッドビューの表示を改善するには、次の機能を使用できます。

- [ヘッダー (Header)]: 選択したフィールドのヘッダーを追加 (+) または削除 (-) するには、この機能を使用します。これは、フィールドセットを分類するのに役立ちます。

(注) 空のヘッダーを含むビューは保存できません。

Cisco Unified Intelligence Center 12.0 以降へのアップグレード後は、以前のリリースのレポートビューに存在する空のヘッダーは移行されません。

- [編集 (Edit)] アイコン: [選択済み (Selected)] の値のリストボックスで、選択したフィールドの [表示名 (Display Name)] と [列の幅 (Column Width)] を編集する場合は [編集 (Edit)] アイコン (フィールド値にカーソルを合わせる) をクリックし、[完了 (Done)] をクリックします。

(注) [ヘッダー (Header)] フィールドで編集できるのは、[表示名 (Display Name)] のみです。

- [フィールドでグリッドをソートする (Sort Grid by Field)]: 選択したレポート列を昇順または降順にソートするには、[フィールドでグリッドをソートする (Sort Grid by Field)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、[選択済み (Selected)] の値のリストボックスからドロップダウンリストに値を挿入できます。並べ替えには1つの値のみを選択できます。

ステップ8 [保存 (Save)] をクリックします。
レポートビュー画面が表示されます。

ステップ9 [Finish] をクリックします。

グラフビューの作成

Cisco Unified Intelligence Center は次のグラフの種類をサポートしています。

- **棒グラフ** - 棒グラフは非連続のイベントを表します。傾向よりイベント間の差異を表現するのに向いています。棒グラフは垂直方向に並び、水平に積み重ねたり、上下にグループ化したりすることも可能です。
- **円グラフ** - 円グラフでは、全体に対する比率として量を表します。円はデータの 100% を表し、各量はそれぞれに応じた扇形で表します。円グラフは、10進数または数値のフィールドのみを対象とします。1つの円グラフでは50個を超える扇形は対応できません。データセットとグラフエディタの選択により50を超える扇形を使用して円グラフを生成すると、エラーが発生します。

ドーナツグラフは円グラフのもう1つの表示方法です。

- **縦棒グラフ** - 縦棒グラフは非連続のイベントを表します。傾向よりイベント間の差異を表現するのに向いています。縦棒グラフは水平方向に並び、垂直に積み重ねたり、左右にグループ化したりすることも可能です。
- **ダイヤルゲージ/数値** - ゲージチャートは、定義されたしきい値に従ってレポート結果のダイヤル表示を表示します。
数値グラフは、定義されたしきい値に従って強調された数値形式でレポートの結果を表示します。
- **折れ線グラフ** - 折れ線グラフは、連続する数量の共通の目盛りに対する経時的な変化を表します。折れ線グラフを使用して傾向を表示します。



- (注)
- ライブデータレポートはグラフビューをサポートしていません。
 - 垂直方向のグラフでは、キリル文字の場合、[横軸 (Horizontal Axis)] フィールドのデータラベルが非表示になったり、文字化けしたりすることがあります。これは既知の制限事項です。したがって、キリル文字には水平方向のグラフを使用します。

グラフビューを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1** レポートを作成または編集します。
- ステップ2** [基本詳細] 画面でレポートの詳細を入力し、[次へ (Next)] をクリックします。
[ビューの管理] 画面にデフォルトのグリッドビューが表示されます。
- (注) レポートのパーマリンクには、レポートの基準を入力した後にのみアクセスできます。レポートパーマリンクを使用すると、他のユーザとレポートを共有したり、他のユーザのレポートを表示することができます。詳細については、「レポートのパーマリンク」を参照してください。
- ステップ3** [新規作成 (Create New)] > [グラフビュー (Chart view)] をクリックします。
- ステップ4** [新しいチャートビューを作成する (Create New Chart View)] 画面で、必要なチャートタイプをクリックします。詳細については、「グラフの種類」を参照してください。
- ステップ5** チャート情報として [名前 (Name)] および [説明 (Description)] を入力し、[次へ (Next)] をクリックします。

(注) チャートビューの [名前 (Name)] に許容される最大長は 50 文字です。

デカルト型グラフ (横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフ) の場合は、データをグループ化するための [データのグループ化 (Group Data)] チェックボックスを選択します。

- [フィールド別 (By a field)] : 縦軸に折れ線グラフまたは縦棒グラフ用に構成されたフッター数式のあるフィールドを表示し、横軸に横棒グラフ用のフッター数式のあるフィールド表示するチャートビューを作成するには、このオプションを選択します。
- [ラベルフィールド基準 (By label field)] : 縦軸に折れ線グラフまたは縦棒グラフの 10 進数データ型のフィールドを表示するグラフビューを作成するには、このオプションを選択します。棒グラフでは、横軸に 10 進数タイプのフィールドが表示されます。

(注) 円グラフでは、[ラベルフィールド基準でのデータのグループ化 (Group Data by Label Field)] のみを実行できます。

ステップ 6 [データフィールドの追加 (Add Data Fields)] 画面で、ドロップダウンリストから [ラベルフィールド (Label Field)] を、リストボックスから [データフィールド (Data Fields)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 7 プレビューとフォーマット画面で、選択したチャートタイプに基づいて適切な情報を入力または選択します。

詳細については、「グラフの種類」を参照してください。

(注) 次のデータフィールドでは、縦棒タイプ (積み上げおよびグループ化) 機能は使用できません。

- 日時
- ブール

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

関連トピック

- [レポートのパーマリンク](#)
- [グラフの種類 \(21 ページ\)](#)

グラフの種類

グラフのタイプ	グラフ情報	データフィールドの追加	プレビューとフォーマット
棒グラフ	はい	はい	はい
縦棒グラフ	はい	はい	はい

グラフのタイプ	グラフ情報	データフィールドの追加	プレビューとフォーマット
折れ線グラフ	はい	はい	はい
ゲージ/数値	いいえ	はい (注) ゲージグラフを設定するには、レポート定義に少なくとも1つのフッター付き10進フィールドが設定されている必要があります。	はい このレポートに対して、[ダイヤルゲージ (Dial Gauge)] ビューまたは [数値 (Numeric)] ビューを選択できます。 ダイヤルゲージまたは数値のグラフビューを設定するには、次の手順を実行します。 1. 範囲を入力します (最小と最大)。 デフォルト: 0 ~ 100 2. ゾーンを定義します。 グラフの値が定義されているしきい値以内である場合、 <ul style="list-style-type: none"> • ゲージポインタは、しきい値に設定されている対応色を指します。 • 数値テキストは、しきい値に設定されている対応色で表示されます。 3. [保存 (Save)] をクリックします。
円グラフ	はい	はい (注) 円グラフを設定するには、レポート定義に少なくとも1つの10進フィールドが設定されている必要があります。	はい このレポートの表示タイプとして、[円 (Pie)] または [ドーナツ (Donut)] を選択できます。

レポートのしきい値

フィールド値がしきい値の条件を満たしているかどうかを表示するには、フィールドにしきい値インジケータを設定します。このリリースでは、[しきい値 (threshold color)] の色選択に使用されるカラーパレットではない9色になっています。しきい値インジケータは、**グリッド**および**チャート** > **ゲージ** タイプのビューにのみ設定できます。

チャート > **ゲージ** ビューのしきい値インジケータの設定については、**グラフビュー**を作成しますを参照してください。

[**グリッド (Grid)**] ビューのフィールドしきい値インジケータを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [ビューの管理] 画面で、レポートビューを追加した後、[次へ (Next)] をクリックします。しきい値 画面が表示されます。
- ステップ 2** しきい値を設定するビューを選択し、[新しいしきい値の作成 (Create new threshold)] リストからフィールド名を選択します。画面が更新され、選択したフィールド名の新しいパネルが表示されます。
- ステップ 3** フィールド演算子を選択し、[演算子 (Operator)] リストから条件を設定します。

演算子	説明
一致	<p>一致演算子では、正規表現を使用できます。</p> <p>ただし、正規表現では以下がサポートされないことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フラグ (i, g, m, n, y) 、またはこれらのフラグの組み合わせ、あるいはそれらのすべて • 先頭および末尾のスラッシュ (/) <p>例 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 有効なパターン → \w+\s • 無効なパターン → ^\w+\s/g <p>(これには、先頭および末尾にスラッシュがあり、「g」フラグも含まれています)</p>
文字列フィールド : 常にに次の値、等しい、等しくない	<p>レポート定義で、任意のフィールドに%形式が定義されている場合は、そのフィールドのしきい値を設定するときに、パーセント値の10進形式を入力して、レポートに条件を表示するようにしてください。</p> <p>次に例を示します。</p>

演算子	説明
小数フィールド：常に次の値、等しい、等しくない、次の値より大きい、次の値より小さい、次の値以上、次の値以下、次の値との間	<p>レポート定義で、フィールド「SL」（サービス レベル）に % 形式が定義されており、このフィールドにしきい値を適用して、SL が 60 % 未満になった場合に「赤」を表示するには、次のように設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SL フィールドのしきい値を定義します。 2. [演算子 (Operator)] を [次の値より小さい (Less Than)] に設定します。 3. パーセンテージの値として 0.60 と入力します。 4. [塗りつぶしなし (No Fill)] ドロップダウンで [赤 (Red)] を選択します。 5. [完了 (Done)] をクリックします。

ステップ 4 [塗りつぶしなし (No Fill)] からオプションを選択し、[しきい値 (Thresholds)] フィールドを編集します。

(注) 同じフィールドや別のフィールドの条件を設定できます。

- 同じフィールドの条件：同じフィールドのしきい値と条件。
- 別のフィールドの条件：別のフィールドの条件に基づいたフィールドのしきい値。
- 同じフィールドの複数の条件：別のフィールドの条件に基づいてフィールドのしきい値を適用。

注意 Unified Intelligence Center バージョン 11.6 以降にアップグレードした場合、それよりも前のバージョンで作成されたレポートでは、すべてのしきい値の色が保持されます。ただし、しきい値を変更すると、レポート内のすべての古いしきい値の色選択が失われます。したがって、レポート用のしきい値の色の選択を再設定する必要があります。

既存のレポートの場合、上記のステップを実行し、他のしきい値を追加します。

(注) しきい値設定は、1つのフィールドについて最大 30 のしきい値をサポートします。

実行済みレポートの既存のしきい値を編集するには、[レポート オプション (Report options)] をクリックし、[しきい値の管理 (Manage Thresholds)] を選択します。

ステップ 5 しきい値の条件が一致したときに表示するフィールドのテキストの書式を設定します。次のオプションを使用します。

- [テキストボールド (太字テキスト)]：レポートフィールドを太字で強調表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- [テキスト/背景色 (Text/Background Color)]：フィールドのテキスト/背景色のドロップダウンから色を選択します。

- [代替テキスト (Text Substitute)] : しきい値条件に一致する場合にフィールドのテキストを文字列で置換するには、新しい文字列を入力します。
 - 代替テキストとしてhtml ハイパーリンクを追加する構文 : `cisco`
 - テキストの代わりに空白を追加する構文 :
- [画像の場所 (Image Location)] : テキストを画像で置き換える場合は、その画像の URL パスを入力します。

ステップ6 [完了 (Done)] をクリックします。

ステップ7 [Finish] をクリックします。

関連トピック

[グラフ ビューの作成](#) (19 ページ)

レポートの実行

レポート アクション - 実行モード

すべてのメニュー項目およびレポート実行時に行えるアクションを次の表に示します。

表 3: レポートのアクション

アクション	説明
レポートのオプション	
ビューの編集	[ビューの編集 (Edit View)] ダイアログボックスを表示します。現在のレポートビューを修正して[完了 (Done)] をクリックすると、修正したビューをすぐに表示できます。
ビューに名前を付けて保存	既存のレポートビューを複製します。[ビューを保存 (Save View)] ダイアログボックスで、複製したビューの名前と説明を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。実行中のレポート ページが、複製されたビューを反映して更新されます。

アクション	説明
グラフ ビューの作成	<p>実行されたレポートの場合、編集権限がある場合は、チャートビューを直接作成することができます。グラフ ビュー作成後、実行中のレポートページが、新規作成されたグラフビューを反映して更新され、ビューのリストに表示されます。</p> <p>(注) この機能は、MediaSense およびライブデータレポートでは無効になります。</p> <p>詳細については、「グラフ ビューの作成」の項を参照してください。</p>
グループ化	<p>現在のビュー (列) のグループ化設定を追加/削除/更新します。Cisco Unified Intelligence Center のグリッドレポートは、最大3つのレベルのグループ化をサポートします。</p> <p>日付データタイプまたは日時データタイプで列をグループ化する場合は、日、週、または月単位でレコードをグループ化できます。</p> <p>詳細については、「グループ化」の項を参照してください。</p>
しきい値の管理	<p>フィールドの値がしきい値条件に合致しているか表示するための、フィールドのしきい値インジケータを設定します。しきい値インジケータは、グリッドタイプおよびゲージタイプのビューにのみ設定できます。</p> <p>詳細については、「レポートのしきい値」の項を参照してください。</p>
SQL	このレポートを実行するために使用される SQL コードを表します。
エクスポート	<p>実行されたグリッド レポート データをローカルディスクに.xls 形式でエクスポートします。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートを Excel ファイル形式でエクスポートして、そのエクスポートしたレポートを読み取る場合は、クライアントシステムのロケールがブラウザのロケール (レポートをエクスポートしたロケール) と一致している必要があります。 レポートビューアでレポートを Excel にエクスポートする場合、DECIMAL データ型のカスタム形式は適用されません。
レポート メニュー	
レポートの出力または停止	クリックすると、レポートがそれぞれ実行または一時停止されます。

アクション	説明
レポートの印刷	デフォルトのプリンタを使用してレポートを印刷します。 (注) チャートビューのレポートは、印刷用の A3 サイズの用紙で横長モードのみをサポートします。
フィルタの管理	このレポートのフィルタ条件を変更するための[フィルタの選択 (Choose Filter)]ダイアログ ボックスを表示します。 詳細については、「レポート フィルタ」の項を参照してください。
更新	[レポート (Report)] ページを更新します。
フィルタ情報の表示	実行するレポートのフィルタ情報を表示します。
オンライン ヘルプ	設定済みのテンプレート ヘルプを表示します。レポートのテンプレート ヘルプを設定するには、[レポート (Reports)] ページ > [ヘルプの追加 (Add Help)] の順に選択します。 詳細については、「テンプレート ヘルプの追加」の項を参照してください。
しきい値のみ	このトグル ボタンを選択すると、しきい値に合致する行のみレポートに表示されます。 デフォルトでは、このチェック ボックスはすべてのレポートについてオフになっています。 (注) このボタンは、グループ化されたビューに対しては無効です。

関連トピック

- [グラフ ビューの作成 \(19 ページ\)](#)
- [レポートのしきい値 \(23 ページ\)](#)
- [グループ化 \(27 ページ\)](#)
- [レポート フィルタ \(8 ページ\)](#)
- [テンプレート ヘルプの追加 \(7 ページ\)](#)

グループ化

実行済みレポートの場合、現在のビューのグループ化設定を追加、削除、更新するには、[グループ化 (Group By)] オプションを使用します。Cisco Unified Intelligence Center のグリッドレポートは、最大 3 つのレベルのグループ化をサポートします。

日付データ タイプまたは日時データ タイプで列をグループ化する場合は、日、週、または月単位でレコードをグループ化できます。



(注) ライブ データ レポートはグループ化をサポートしていません。

レポート データをグループ化するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 実行済みレポートの場合、[レポートオプション (Report options)]アイコンをクリックし、[グループ化 (Group By)]オプションを選択します。

ステップ 2 [グループ化 (Group By)]ダイアログボックスで、レポートをグループ化する [レベルの数 (Number of Levels)]を指定します。
選択したレベルの数に応じて、[レベル (Level)]列、[グループ化基準 (Grouped By)]列、[サブグループ (Sub Group)]列、および [拡張して表示 (Show Expanded)]列がアクティブになります。

Cisco Unified Intelligence Center のグリッドレポートは、最大3つのレベルのグループ化をサポートします。

ステップ 3 レポートデータを特定の列の値でグループ化するには、必要な列名を **グループ化された** リストから選択します。

リストから日付または日時の値を選択した場合、[サブグループ (Sub Group)]列から次のいずれかを選択できます。

- [なし (None)]: レポート データは日付または日時の絶対値によってグループ化されます。
- [毎日 (Daily)]: レポート データは1日単位でグループ化されます。
- [毎週 (Weekly)]: レポート データは週単位でグループ化されます。
- [毎月 (Monthly)]: レポート データは月単位でグループ化されます。

デフォルトでは、[拡張して表示 (MonShow Expanded)]オプションがオンになっていますが、このオプションは必要に応じてオフにできます。[拡張して表示 (Show Expanded)]列では、拡張されたグループの実行済みレポートが表示されます。

レポートのサマリー行のみを表示するには、[サマリーのみ表示 (Show Summary Only)]トグル ボタンをオンにします。

たとえば、エージェント チーム単位でグループ化し、[サマリーのみ表示 (Show Summary Only)]トグル ボタンをオンにすると、各チームのサマリー データ行のみが表示されます。

(注) フィールドにレポート定義で定義されたフッター数式がある場合、その数式が使用されているフィールドのグループ レベル サマリーも表示されます。

ステップ 4 [保存 (Save)]をクリックします。

- (注)
- グループ化されたビューの場合は [しきい値のみ (Only Thresholds)] チェックボックスがディセーブルになります。
 - しきい値は、グループ化されたフィールドやサマリー行には表示されません。
 - グループ化されたフィールドがあるレポートからのドリルダウンは実行できません。

同時レポート

200 人の Cisco Unified Intelligence Center ユーザが、次のレポートを同時に実行できます (XML 固定リンクなし)。

- 100 行、10 列の 2 つのリアルタイムレポート。
- 2000 行、10 列の 2 つの履歴レポート。
- 展開でライブデータがサポートされている場合、100 行、10 列の 2 つのライブデータレポート。

XML 固定リンクが含まれている場合は、上記の 200 人のユーザに加えて 30 人のユーザ (それぞれ 1 つのリアルタイム XML 固定リンクと 1 つの履歴 XML 固定リンクを実行) がサポートされます。この結果、1 時間あたり 7200 件のリアルタイム XML 固定リンクの実行と 1 時間あたり 60 件の履歴 XML 固定リンクが実行されます。

レポートのインポート

Unified Intelligence Center レポートは、.xml ファイル形式または .zip ファイル形式でインポートできます。

インポートされたレポートは、次のエンティティのデータを取得します。

- レポート
- レポート定義
- 値リスト
- ビュー
- しきい値
- ドリルダウン
- テンプレート ヘルプ



(注) 各レポートテンプレートのヘルプフォルダのサイズは 3 MB に制限されています。フォルダサイズがこの制限を超えると、システムはヘルプ コンテンツをロードしません。



(注) レポートフィルタとコレクションはインポートできません。

レポートをインポートするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで、**レポート** をクリックします。
- ステップ 2** **レポート** リスティング ページで、**インポート** をクリックします。
- ステップ 3** [参照 (Browse)] をクリックして、インポートするファイル (.xml または .zip 形式) を選択します。
- (注) 最大ファイルサイズは、.zip ファイル形式では 60 MB、.xml ファイル形式では 3 MB です。
- ステップ 4** 必要なファイルを選択し、[開く (Open)] をクリックします。
- ステップ 5** [保存先フォルダ (Save to Folder)] リストからファイルの保存先の場所を選択して、ファイルを保存します。
- ステップ 6** [アップロード (Upload)] をクリックします。
ファイルが正常にアップロードされると、テーブルには、対応するレポートテンプレート、現在使用可能なバージョン、およびインポートされるファイルの受信バージョンが入力されます。
- ステップ 7** インポートするレポートのレポート定義が **Unified Intelligence Center** で定義されていない場合にのみ、レポート定義のデータソースを選択します。
- ステップ 8** レポート定義で定義されている値リストのデータソースを選択します。
- (注) 以下に該当する場合、値リストのデータソースの選択は必須です。
- 値リストがレポート定義と同じデータソースを使用しない場合。
 - リアルタイムストリーミングレポート定義の場合。
- ステップ 9** インポートまたは上書きするファイルを選択します。
- 上書き - インポートされるレポートが **Unified Intelligence Center** に存在する場合。
 - インポート - インポートされるレポートが新しいレポートファイルのセットの場合。

ステップ10 [インポート (Import)] をクリックします。

- (注)
- 異なるバージョンの Unified Intelligence Center へのレポートのインポートはサポートされていません。ただし、Unified Intelligence Center をアップグレードすると、アップグレード後のバージョンでレポートテンプレートが引き続き機能します。
 - 手動で編集した XML のインポートはサポートされていません。

レポートとフォルダのエクスポート

Unified Intelligence Center からカスタムまたはストックレポートまたはレポートフォルダをエクスポートできます。レポートおよびレポートフォルダは、ZIP ファイル形式でエクスポートされます。

フォルダをエクスポートすると、そのフォルダのレポートが zip ファイルとしてグループ化されます。グループ化は、レポート定義と値リストによって使用されるデータソースに基づいて行われます。



- (注)
- カスタマイズされたレポートの場合は、レポートをエクスポートする前に値リストとレポート定義のバージョン番号を更新する必要があります。更新しないと、エクスポートで既存のレポートが上書きされません。
 - フォルダをエクスポートするときは、レポート定義またはフォルダ内のすべての値リストがそれぞれ同じデータソースを指していることを確認します。



注意 カスタマイズされた目的で、エクスポートされたレポート (XML ファイル) を変更しないでください。ただし、必要に応じて、レポート、レポート定義、および ValueList の EntityVersion のみを変更できます。

レポートをエクスポートすると、レポートに関連付けられている次のデータがエクスポートされます。

- レポート
- レポート定義
- 値リスト
- ビュー
- しきい値

- ドリルダウン
- テンプレート ヘルプ (バンドルされていない場合は、zip ファイル形式で空のフォルダが作成されます)



(注) レポート フィルタとコレクションはレポートとともにエクスポートされません。

レポートまたはフォルダをエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左のナビゲーションパネルから、**レポート** をクリックします。

ステップ 2 エクスポートするレポートまたはレポートフォルダに移動し、レポートの横にある省略記号アイコンをクリックして **エクスポート** をクリックします。

(注) 必要に応じて、レポートまたはレポートフォルダの名前を変更できます。ファイル拡張子を変更しないでください (レポートまたはレポートフォルダ : zip) 。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

エクスポートされたファイルは、指定されたローカルフォルダにダウンロードされます。
